

株主メモ

・事業年度

毎年4月1日～翌年3月31日

・定時株主総会

毎年6月

・基準日

定時株主総会・期末配当：毎年3月31日

中間配当：毎年9月30日

・公告方法

電子公告(www.nissanchem.co.jp)

但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

・1単元の株式の数

100株

・上場金融商品取引所

株式会社東京証券取引所

・株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

・同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

・郵便物送付先・電話お問合せ先

〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

0120-782-031(フリーダイヤル)

●住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座に記録されました株主様は、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

●未払配当金のお支払いについて

三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

但し、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などにて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

IR情報はホームページからもご覧になれます。

<http://www.nissanchem.co.jp>



日産化学工業

検索

株主・投資家の皆様へ

Business Report

第147期 中間報告書

2016年4月1日から
2016年9月30日まで

UD
FONT



日産化学工業株式会社

証券コード：4021



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における国内景気は、雇用環境の改善、原油安などプラス要素があった一方、消費マインドの足踏み、円高と世界経済の先行き不透明感から、横ばいの状況が続きました。

当社グループの概況につきましては、化学品部門は、メラミン(合板用接着剤原料等)の輸出が増加しましたが、「テピック」(封止材用等特殊エポキシ)が減少しました。機能性材料部門は、ディスプレイ材料が好調に推移しましたが、半導体材料、無機コロイド材料は低調でした。農業化学品部門は、「ラウンドアップ」(非選択性茎葉処理除草剤)の一般家庭向け新剤、動物用医薬品原薬の出荷が順調でした。

医薬品部門は、「リバロ」(高コレステロール血症治療薬)原薬の国内販売が苦戦しました。

この結果、当期の業績は増収増益となりました。なお、中間配当金につきましては、1株当たり24円(前期中間配当金に比べ6円増配)とさせていただきます。

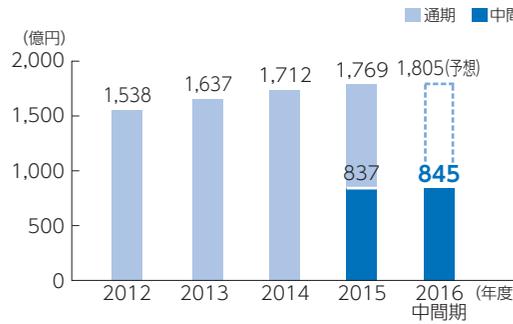
今年度の業績につきましては、足元の需要予測をもとに見直した結果、本年5月の公表値と比べ、営業利益は微増、売上高および親会社株主に帰属する当期純利益は減少となりますが、前年比では増収増益となる見通しとなっています。今後も国内外の経済情勢は力強さを欠き、予断を許さない事業環境が継続するものと想定しております。

当社グループは、本年4月より、2030年を見据えた長期経営計画「Progress2030」ならびに2021年のあるべき姿を示す6か年の中期経営計画「Vista2021」をスタートさせました。今年度はこれら計画の初年度として極めて重要であると認識しており、基本戦略に基づく諸施策を着実に実行し、全社を挙げて利益目標の達成を目指してまいり所存です。

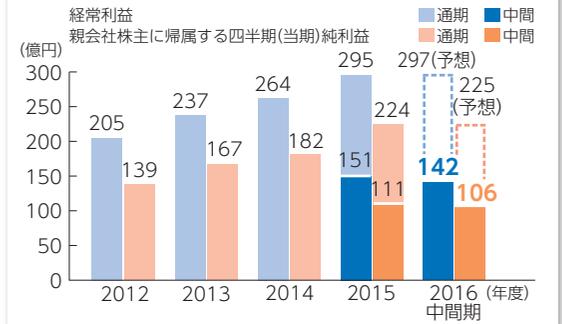
株主の皆様におかれましては、より一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長 **木下 小次郎**

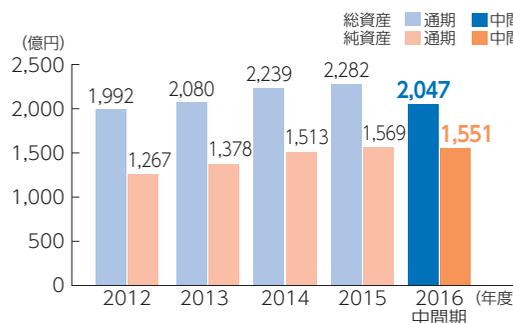
1 売上高



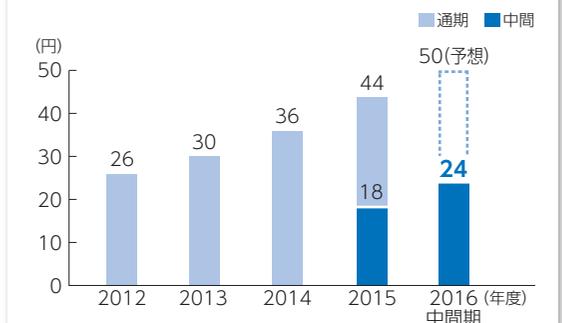
2 経常利益/親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



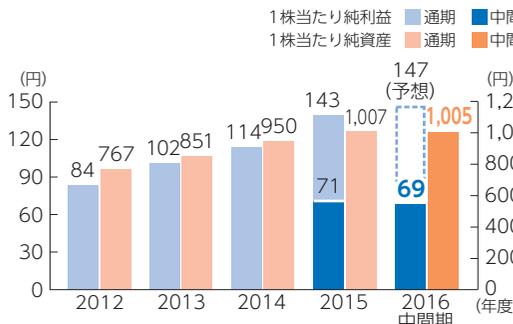
3 総資産/純資産



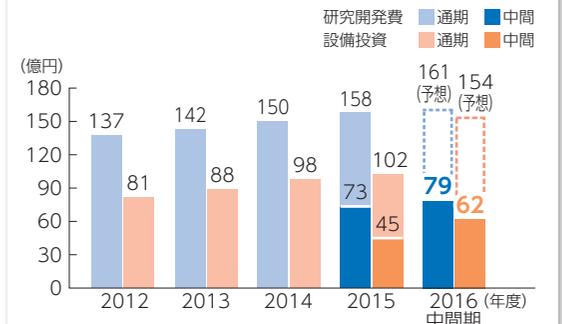
4 1株当たり配当金



5 1株当たり純利益/1株当たり純資産



6 研究開発費/設備投資



セグメント別概況



1 メラミン食器

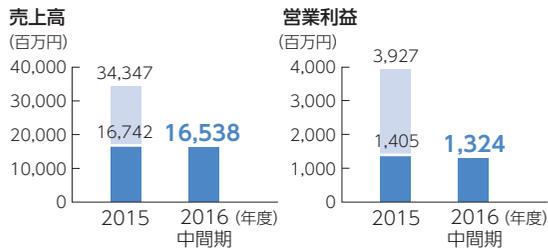


2 スマホ・タブレット・モニター

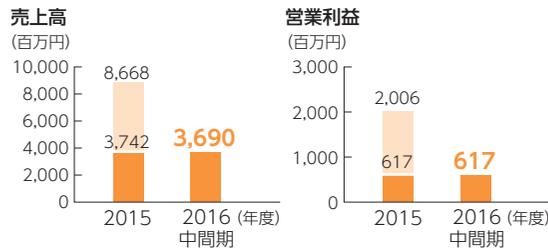


3 動物用医薬品「ブラベクト」スポットオン

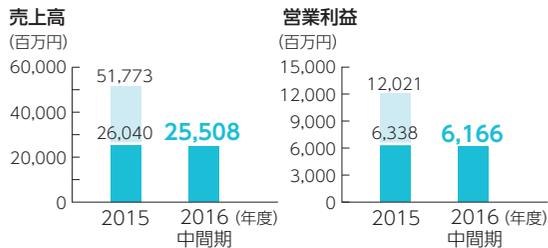
1 化学品部門



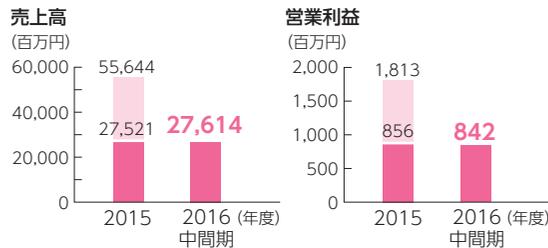
4 医薬品部門



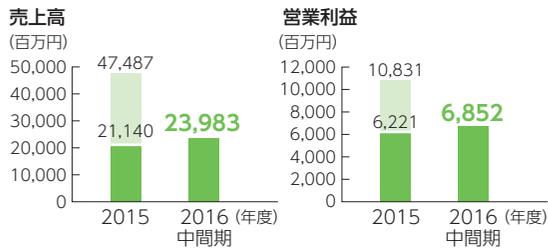
2 機能性材料部門



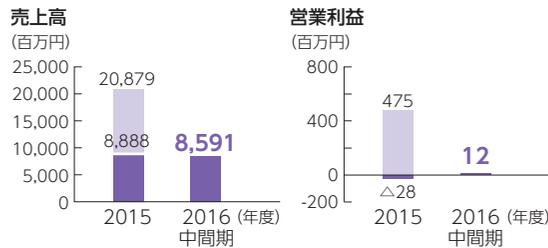
5 卸売部門



3 農業化学品部門



6 その他の部門



1 化学品部門

ナフサをはじめとする原燃料価格の下落を受けて、アンモニア系製品の収益性が向上しました。基礎化学品では、メラミン(合板用接着剤原料等)の輸出および「アドブルー」(高品位尿素水)の販売が増加しましたが、ファインケミカルでは、「テピック」(封止材用等特殊エポキシ)が円高の影響を受け減収となりました。

この結果、当部門の売上高は165億38百万円(前年同期比2億3百万円減)、営業利益は13億24百万円(同81百万円減)となりました。

4 医薬品部門

「リパロ」(高コレステロール血症治療薬)原薬の出荷は、国内では後発品の増勢により減少しましたが、海外では特にアジア向けで伸長しました。「ファインテック」(医薬品研究開発参加型事業)は、堅調に推移しました。

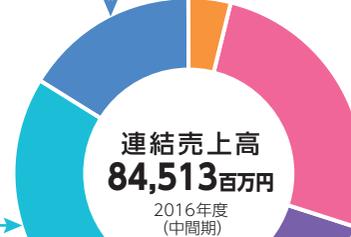
この結果、当部門の売上高は36億90百万円(前年同期比51百万円減)、営業利益は6億17百万円(同0百万円増)となりました。

2 機能性材料部門

ディスプレイ材料では、「サンエパー」(液晶表示用材料ポリイミド)のスマートフォンなど中小型向けが好調に推移しました。半導体材料では、半導体用反射防止コーティング材(ARC®)および多層材料(OptiStack®)が一部顧客の稼働率低下の影響を受けました。無機コロイド材料は、「スノーテックス」(電子材料用研磨剤、各種表面処理剤等)の電子材料用研磨剤向けが減少しました。

この結果、当部門の売上高は255億8百万円(前年同期比5億31百万円減)、営業利益は61億66百万円(同1億72百万円減)となりました。

*ARC®およびOptiStack®はBrewer Science, Inc.の登録商標です。



5 卸売部門

当部門の売上高は276億14百万円(前年同期比93百万円増)、営業利益は8億42百万円(同13百万円減)となりました。

3 農業化学品部門

国内は「ラウンドアップマックスロードAL」(一般家庭向け除草剤)は拡大しましたが、全般的に荷動きが悪く、当社製品販売は低調となりました。一方、フルラネル(動物用医薬品原薬)は、好調な出荷となりました。

この結果、当部門の売上高は239億83百万円(前年同期比28億43百万円増)、営業利益は68億52百万円(同6億30百万円増)となりました。

6 その他の部門

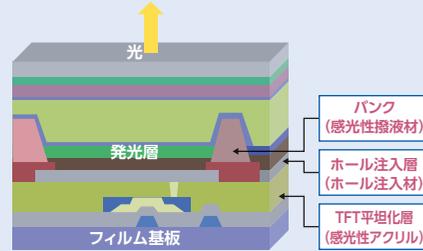
当部門の売上高は85億91百万円(前年同期比2億96百万円減)、営業利益は12百万円(同41百万円増)となりました。

「有機EL関連材料の開発」

当社は、次世代ディスプレイとして今後普及拡大が見込まれる有機EL向け材料の開発、市場開拓に注力しています。具体的には、塗布型ホール(正孔)注入材、塗膜表面の平滑化に役立つ感光性アクリル、解像度向上に貢献するバンク材などの開発を進めています。

有機ELディスプレイの生産方法は現在、蒸着方式が主流ですが、生産コスト低減や大型化などで優位性のある塗布方式による量産技術の確立が期待されています。このような状況のもと、本年6月、ベルギーの大手化学メーカーであるソルベイ社と、塗布型ホール注入材とホール輸送材の特許およびノウハウ購入契約を締結しました。同社の材料は、塗膜の透明性や低屈折率、インクの保存安定性などで優れた特長を有しており、当社の技術と組み合わせることで、さらなる特性向上が可能になります。

当社は、今回の契約で取得した技術を活用し、塗布型有機EL関連材料の開発、事業化を加速してまいります。



海外展開の加速

本年4月にスタートした中期経営計画「Vista2021」では、基本戦略を「現有製品の利益の最大化」、「マーケティング力の向上」、「研究開発力の強化」と定め、海外における事業展開の推進、先端材料情報の入手、新製品開発の早期化などに取り組んでいます。

この戦略に基づき、本年度新たに2つの海外拠点を立ち上げました。まず4月に、アメリカのカリフォルニア州サンタクララにNissan Chemical America Corporation (NCA)の事務所を開設しました。シリコンバレーの中心に位置するサンタクララには、世界のハイテク企業や、イノベーションを通じて新たなビジネス開発に取り組むスタートアップ企業が集中しています。企業、大学等とのコミュニケーションを通じ、主に情報通信、エネルギー分野で、将来の柱となる材料、技術の探索を進めます。

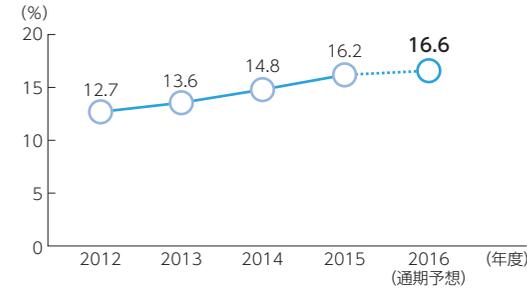
6月には、世界最大の農業市場であるブラジルにおける当社農業の販売力強化、技術サービス向上、登録保有等を目的に、ブラジルのサンパウロ州ポトランチンに現地法人Nissan Chemical do Brasil (NCB)を設立しました。今後、アルゼンチン、チリなど成長著しい南米諸国におけるビジネス展開も見据え、農業事業の拡大に努めます。

当社グループは引き続き、経営計画の達成、持続的成長に向けた諸施策を実行してまいります。

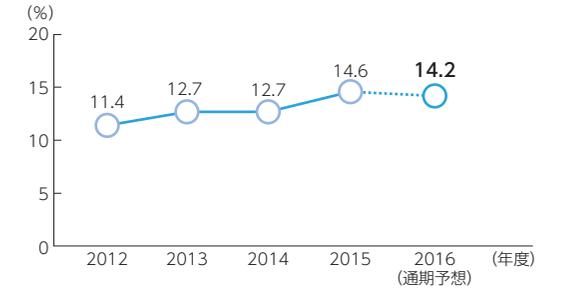


連結主要指標推移

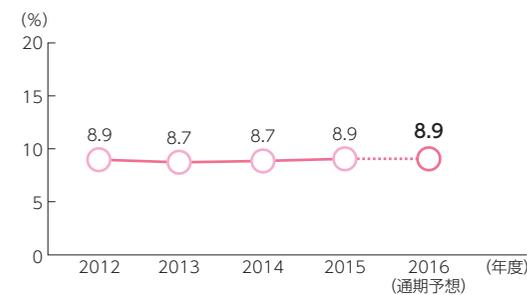
■ 売上高営業利益率



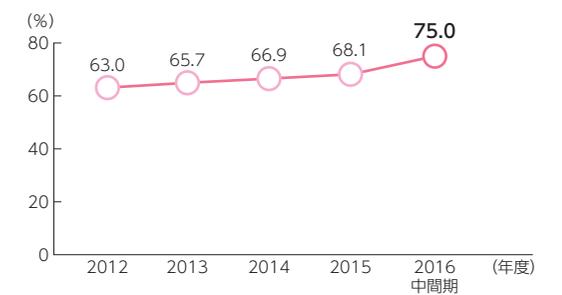
■ ROE



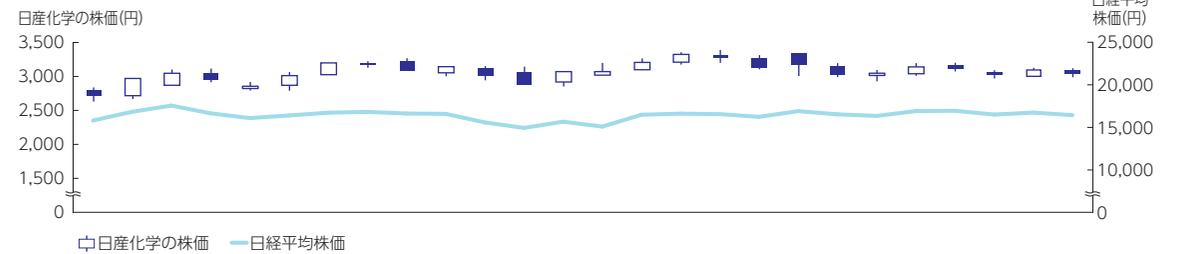
■ 売上高研究開発費比率



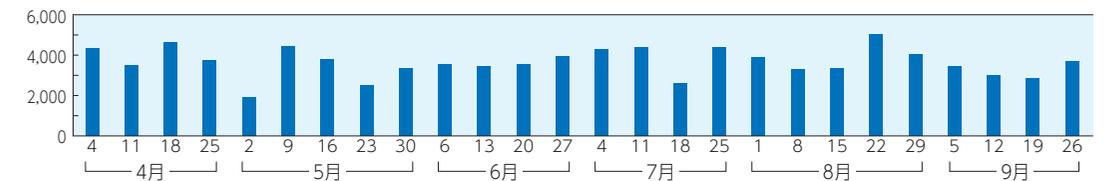
■ 自己資本比率



■ 株価および出来高(2016年4月～2016年9月)

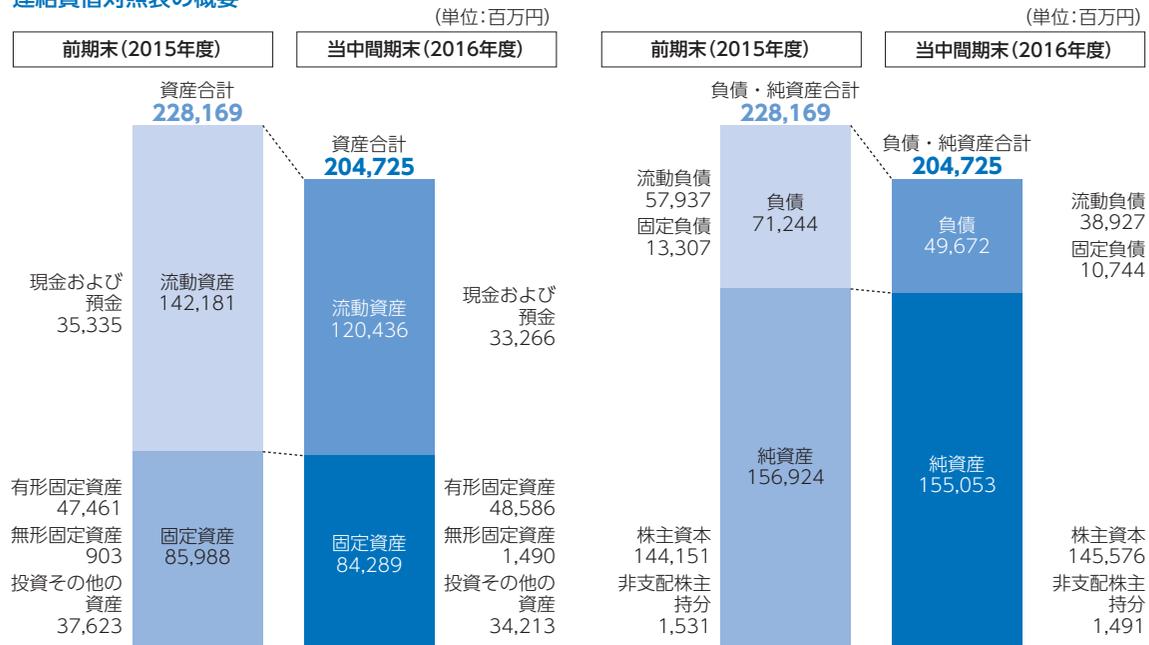


日産化学の出来高(千株)

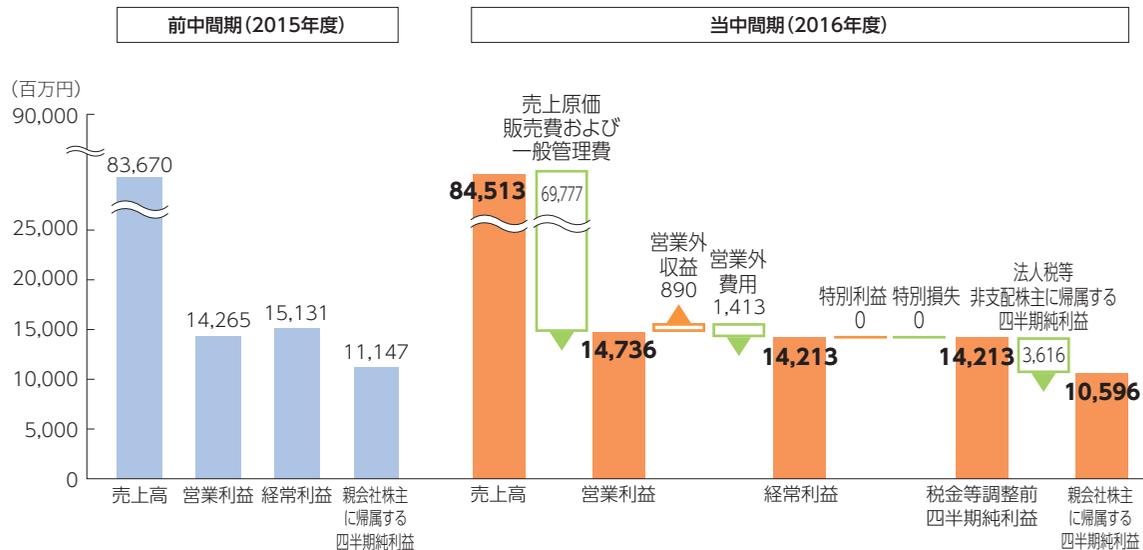


連結財務の状況

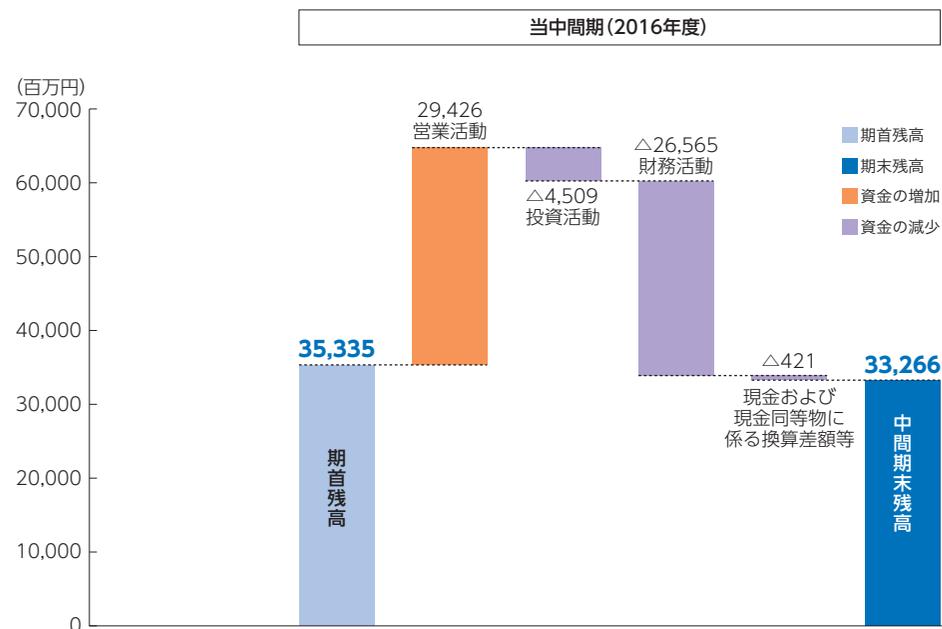
連結貸借対照表の概要



連結損益計算書の概要



連結キャッシュ・フロー計算書の概要



貸借対照表のPOINT 堅固な財務基盤

自己資本と有利子負債のバランスに配慮し、9月末の自己資本比率は75%と極めて堅固な財務基盤を築いています。

損益計算書のPOINT 上期における営業利益 過去最高

上期の利益は、営業利益14,736百万円(過去最高を更新)、経常利益14,213百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益10,596百万円となりました。

キャッシュ・フロー計算書のPOINT 積極的な株主還元

株主還元のため実施した自己株式の取得による支出50億円が、財務活動によるキャッシュ・フローに含まれています。

